

部の運営方針・課の目標設定書(令和2年度)

部コード	15	部名	教育総務部	部長名	飯田 秀勝
1. 部の運営方針(予算編成・実施計画策定方針などを踏まえて、基本計画の分野別計画や重点プロジェクト、所管に係る分野別基本計画の目標を考慮して、部の目標を達成するための方針を記入)				部の運営方針に対する課の目標への取組結果	
<p>○ 「我孫子市教育大綱」と「我孫子市教育振興基本計画」に基づき、教育行政を推進します。</p> <p>○ 学校教育の充実(「豊かな心の育成」、「確かな学力の育成」、「健やかな体の育成」)の推進を図り、『生きる力』の育成に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の視点で学力向上に努めます。 ・『小中一貫教育の推進』に努め、各中学校区で作成したランドデザインを達成すべく支援します。また、小中一貫教育基本方針に基づき作成した共通カリキュラムを、全中学校区で計画的に教育課程に組み込んで進められるよう支援します。 ・幼保小連携については、「交流」と「カリキュラム」で連携を深めていきます。 ・市費で配置している外国語指導助手(ALT)、ICT教育支援員、理数教育支援員、学校司書、スクールサポート教員、学級支援員等会計年度任用職員の効果的な活用と配置に努めます。 ・「我孫子市学校職員の働き方改革推進プラン」に基づき、教職員が、生き生きと健康でやりがいを持って子どもに向き合える環境となるよう取り組みます。 ・Q-U検査及びいじめアンケートを継続して実施し、個々の子ども達へのきめ細かな対応に取り組むとともに学級経営を支援します。 ・給食における地産地消の推進をはじめ食に関する教育の充実やスポーツに関する教育を通して体力の向上に努めます。 ・「学校施設個別施設計画」に基づき、子ども達が安心して快適に学べる教育・学習環境をつくります。 ・信頼される学校づくりを推進するため、教職員のモラールアップ研修等を積極的に実施します。教育委員会と各学校の連携を密にし、風通しの良い組織体制と職場環境整備に取り組みます。 <p>○ 地域に根ざした教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土の歴史や文化に関する教育を充実させて郷土愛の育成を図ります。 ・学校評価、学校支援地域ボランティア活動、キャリア教育などを推進し、学校と家庭・地域が一体となった教育と開かれた学校づくりを目指します。 <p>○ 子どもの成長、自立への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立への支援を図るため、就学支援制度などの活用を推進します。 ・いじめ防止対策推進条例及びいじめ防止対策基本方針に基づき、いじめを人権侵害と認識し未然防止に取り組みます。また、関係機関とも連携して取り組み、健全に子どもが成長できるよう引き続き支援していきます。 ・不登校等の児童生徒を支援するために、学校、保護者、子ども相談課、こども発達センター等と一層の連携を図ります。 ・不登校の改善を目的としているヤング手賀沼は、20校目の学校として位置づけ環境整備します。 				<p>・市費で配置しているALT、ICT教育支援員、理数教育支援員、学校司書、スクールサポート教員、学級支援員等会計年度任用職員の効果的な活用と配置に努め、個に応じたよりきめ細かな学習指導を行えた。</p> <p>・我孫子市学校職員の働き方改革推進プランに基づき、教職員が生き生きと健康でやりがいを持って子どもに向き合える環境となるよう取り組みました。</p> <p>・給食に「我孫子産野菜の日」を設けるなど地産地消の推進したり、親子料理教室を開催したりして、学校給食の充実を図ることができた。</p> <p>・小学校に安全管理員を配置をした。通学路の安全点検、保護者及び地域住民への見守りの協力、学校施設や設備、備品の充実等、安全な教育環境を整えることができた。</p> <p>・学校評議員会議を活用、学校評価の反映など地域に開かれた学校づくりを推進することができた。</p>	
				部の運営方針に対する部全体の総合評価	
				<p>教育総務部(総務課・学校教育課・指導課・教育研究所)の運営方針に掲げた目標を概ね達成することができた。</p> <p>本年度は、前年度末からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い2回にわたる緊急事態宣言が国により発出され、事業の中止や延期はもとより小中学校も4月5日が休校になるなど大きな影響もたらされた。そのような中、最初の緊急事態宣言解除後には、感染対策を講じながら小中学校を再開し、新しい生活様式に基づく学校生活の中、修学旅行等の行事は中止となってしまったが、ほぼ例年おりの学習進度を確保、予定した教育課程を達成した。国のコロナ対策関連交付金などの活用により、感染対策物品の購入やGIGAスクール構想、中学校屋内運動場の空調整備など多額の事業予算を補正計上した。そのうち次年度に繰り越した事業もあるため、引き続き繰越事業の執行を含め、部の運営方針の達成に努めていく。</p>	

課コード	02	課名	学校教育課	課長名	鈴木 与志実
2. 課の目標(部の運営方針を受けて課の取組方針を記入)				部の運営方針に対する課の目標への取組結果	
<p>・個に応じたよりきめ細かな学習指導ができるようスクールサポート教員等の配置を適正に行います。</p> <p>・健康な子どもを育むために学校給食の充実を図ります。栄養教諭を中核とした「食に関する指導ハンドブック」の活用を図るとともに、給食に「我孫子産野菜の日」を設けるなど地産地消を推進します。</p> <p>・児童が安全で安心な学校生活が送れるよう小学校に安全管理員を配置するとともに、通学路の安全点検、保護者及び地域住民への見守りの協力、学校施設、設備、備品の充実を図り教育環境を整えます。</p> <p>・学校評議員会議で学校評価を実施するなど、地域に開かれた学校づくりを一層推進します。</p> <p>・平成30年度に策定した「我孫子市立小中学校職員の働き方改革推進プラン」を学校職員、保護者、地域住民へ周知するとともに、改革内容を各学校が実践できるよう指導支援を継続していきます。また、安全衛生委員会において実践を振り返りPDCAサイクルで改善していきます。</p>				<p>○スクールサポート教員等の配置を適正に行い、個に応じたよりきめ細かな学習指導ができるようにした。</p> <p>○コロナ禍で臨時休校になり、給食は6月からの実施であったが、健康な子どもを育むために、できる限り学校栄養職員を中核とした食育の推進を図った。また、給食に「我孫子産野菜の日」を設けるなど地産地消を推進した。</p> <p>○児童が安全で安心な学校生活が送れるよう小学校に安全管理員を配置した。コロナ禍で通学路安全推進会議が実施できず、警察等と協力した通学路の安全点検はできなかった。各学校よりの依頼に応え、保護者及び地域住民の見守りの協力は得ることができた。</p> <p>○学校再開に伴う国の補助金等を活用して感染予防対策の備品や消耗品を充実させることができた。また、通常の予算においても学校施設や設備、備品の充実を図り、教育環境を整えることができた。</p> <p>○コロナ禍で学校運営が難しかったが、学校評議員会議での意見や学校評価を生かしながら、地域に開かれた学校づくりを推進することができた。</p> <p>○平成30年度に策定「我孫子市立小中学校職員の働き方改革推進プラン」の進捗状況を把握しながら、国の指針や県の目標に近づくように学校と協力しながら業務改善を進めてきた。安全衛生委員会を機能させ、実践を振り返り、プランの見直しを図り、なお一層の働き方改革を進めることが必要である。</p>	
3. 課の目標を達成する上での課題と対応(人員の配置、組織のあり方など)					
課内の学務、保健給食担当がそれぞれの事業を受け持っているが、繁忙期には的確かつ迅速に処理を要するため、担当間での協力、連携が極めて重要である。					

4. 原因分析・改善策	
<p>(課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールサポート教員の人材確保と共に、臨時的任用講師の人材確保が必要である。 ・健康な子どもを育むために給食の推進に、給食施設や職員の配置等は大きな影響を与える。学校給食施設整備方針を策定したことから今後方針に基づき設備を整えていく。 	<p>(部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校施設個別施設計画」に基づき、今後の小中学校のあり方を引き続き検討していく。 ・学校予算の適正な執行に努めていく。

5. 課の目標を達成するために取り組む事務事業									
事務事業名(個別事業)	重づけ該当	施策コード	指標	単位	現況値	目標値	実績値	達成率(%)	評価
1 スクールサポート教員の配置事業	重無	52102	スクールサポート教員の配置人数	人	7	7	7	100	現状
2 小中学校配置職員管理事業	重5	52101	臨時職員配置定数(臨時用務員17名、事務補佐員6名、嘱託職)	人	24	24	22	91.67	現状
3 教育扶助(要保護・準要保護児童生徒就学援助)事業	重4	52301	学校長の請求に基づき支給。	%	100	100	100	100	現状
4 児童・生徒・教職員健康診断事業	重5	52101	実施者数/児童・生徒・教職員健診対象者	%	98	99	96	96.97	現状
5 我孫子市学校保健会運営	重5	52101	生活習慣病予防検診実施者/対象者	%	48	80	54	67.5	現状
6 日本スポーツ振興センター災害共済給付・任意保険給付事業	重5	52101	日本スポーツ振興センター災害共済申請事務件数	件	833	800	595	134.45	現状
7 学校給食備品管理事業	重5	52101	計画表に基づく、備品の設置率	%	32	80	32	40	現状
8 学校給食管理運営事業	重5	52101	安心・安全でおいしい学校給食の実施率	%	94	100	94	94	現状
9 我孫子産米及び我孫子産野菜の学校給食の導入事業	重5	52101	我孫子産米・野菜が給食で使用されていることを知っている児童	%	86.5	90	86.5	96.11	現状
10 学校の環境衛生事業	重4	52104	基準値内校/全19校	%	53	100	100	100	現状

5. 課の目標を達成するために取り組む事務事業										
事務事業名（個別事業）	重 施 該 当	施 策 コ ー ド	指 標	単 位	現 況 値	目 標 値	実 績 値	達 成 率 (%)	評 価	
11 小中学校管理運営事業	重4	52104	予算執行率	%	100	100	100	100	現状	
12 小学校の安全管理員の配置	重4	52104	未事故であった小学校	校	13	13	13	100	現状	
13 小中学校備品管理事業	重4	52104	予算執行率	%	100	100	100	100	現状	
14 学校評議員制度の充実	重無	52201	学校評議員による学校評価及び改善への学校の取組み状況。	%	80	90	84	93.33	現状	
15 小中学校給食調理業務の民間委託事業	重無	83202	円滑な給食調理業務の民間委託実施校数	校	18	18	18	100	現状	
16 学級編制及び学籍管理（法令に基づく適切な事務）事業	重4	52104	適切な事務の遂行。	%	100	100	100	100	現状	
17 学校給食施設設備整備事業	重5	52101	修繕・工事の実施率	%	100	100	100	100	現状	

部の運営方針・課の目標設定書(令和2年度)

部コード	15	部名	教育総務部	部長名	飯田 秀勝
1. 部の運営方針(予算編成・実施計画策定方針などを踏まえて、基本計画の分野別計画や重点プロジェクト、所管に係る分野別基本計画の目標を考慮して、部の目標を達成するための方針を記入)				部の運営方針に対する課の目標への取組結果	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「我孫子市教育大綱」と「我孫子市教育振興基本計画」に基づき、教育行政を推進します。 ○ 学校教育の充実(「豊かな心の育成」、「確かな学力の育成」、「健やかな体の育成」の推進を図り、『生きる力』の育成に努めます。) ・「主体的・対話的で深い学び」の視点で学力向上に努めます。 ・『小中一貫教育の推進』に努め、各中学校区で作成したランドデザインを達成すべく支援します。また、小中一貫教育基本方針に基づき作成した共通カリキュラムを、全中学校区で計画的に教育課程に組み込んで進められるよう支援します。 ・幼保小連携については、「交流」と「カリキュラム」で連携を深めていきます。 ・市費で配置している外国語指導助手(ALT)、ICT教育支援員、理数教育支援員、学校司書、スクールサポート教員、学級支援員等会計年度任用職員の効果的な活用と配置に努めます。 ・「我孫子市学校職員の働き方改革推進プラン」に基づき、教職員が、生き生きと健康でやりがいを持って子どもに向き合える環境となるよう取り組みます。 ・Q-U検査及びいじめアンケートを継続して実施し、個々の子ども達へのきめ細かな対応に取り組むとともに学級経営を支援します。 ・給食における地産地消の推進をはじめ食に関する教育の充実やスポーツに関する教育を通して体力の向上に努めます。 ・「学校施設個別施設計画」に基づき、子ども達が安心して快適に学べる教育・学習環境をつくります。 ・信頼される学校づくりを推進するため、教職員のモラールアップ研修等を積極的に実施します。教育委員会と各学校の連携を密にし、風通しの良い組織体制と職場環境整備に取り組みます。 ○ 地域に根ざした教育の充実 ・郷土の歴史や文化に関する教育を充実させて郷土愛の育成を図ります。 ・学校評価、学校支援地域ボランティア活動、キャリア教育などを推進し、学校と家庭・地域が一体となった教育と開かれた学校づくりを目指します。 ○ 子どもの成長、自立への支援 ・自立への支援を図るため、就学支援制度などの活用を推進します。 ・いじめ防止対策推進条例及びいじめ防止対策基本方針に基づき、いじめを人権侵害と認識し未然防止に取り組みます。 ・関係機関とも連携して取り組み、健全に子どもが成長できるよう引き続き支援してまいります。 ・不登校等の児童生徒を支援するために、学校、保護者、子ども相談課、こども発達センター等と一層の連携を図ります。 ・不登校の改善を目的としているヤング手賀沼は、20校目の学校として位置づけ環境整備します。 				<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育全市展開しており、ランドデザインに沿って各中区ごとに児童生徒の実態及び地域の実情に合った特色ある教育を進めた。 ・GIGAスクール構想により全小中学生に1人一台のタブレット型端末を購入、またICT教育支援員を配置することができた。 ・いじめアンケートやQ-U検査の結果を活用し、いじめの早期発見・早期対応に取り組んだ。いじめ担当嘱託職員がいることで学校との連携が一層密となり、素早く対応することができた。 ・幼保小連携・接続カリキュラムを学習指導要領の内容に合わせて改訂した。幼保小の交流について継続的に進めてきたことで、連携が図られている。 ・学校支援地域本部事業の充実を図り、学校教育活動の支援をすることができた。 	
				部の運営方針に対する部全体の総合評価	
				<p>教育総務部(総務課・学校教育課・指導課・教育研究所)の運営方針に掲げた目標を概ね達成することができた。</p> <p>本年度は、前年度末からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い2回にわたる緊急事態宣言が国により発出され、事業の中止や延期はもとより小中学校も4月5日が休校になるなど大きな影響もたらされた。そのような中、最初の緊急事態宣言解除後には、感染対策を講じながら小中学校を再開し、新しい生活様式に基づく学校生活の中、修学旅行等の行事は中止となってしまったが、ほぼ例年通りの学習進度を確保、予定した教育課程を達成した。国のコロナ対策関連交付金などの活用により、感染対策物品の購入やGIGAスクール構想、中学校屋内運動場の空調整備など多額の事業予算を補正計上した。そのうち次年度に繰り越した事業もあるため、引き続き繰越事業の執行を含め、部の運営方針の達成に努めていく。</p>	

課コード	03	課名	指導課	課長名	佐々木 祐子
2. 課の目標(部の運営方針を受けて課の取組方針を記入)				部の運営方針に対する課の目標への取組結果	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちに学習指導要領の示す「生きる力」を育むために、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につかせ、思考力・判断力・表現力などを育成する教育を小中一貫教育の視点を持ち推進してまいります。 ・人生を拓く「確かな学力」を育てるために、教職員の資質能力向上に向けた各種研修を充実させます。 ・言語活動の充実、体験的活動の充実、道徳教育の充実を図り、豊かな心の育成、望ましい人間関係の育成を図ります。 ・全国学力・学習状況調査及び市独自の学力テストの結果を有効に活用し、実践の検証を行うとともに、指導の評価・改善を継続的にいきます。 ・健やかな体の育成を目指し、教育活動全体を通じた体力の向上推進を図るとともに、食に関する教育に努め、健康教育を推進します。 ・ICT(情報通信技術)環境の整備を進めるとともに、インターネットや携帯端末を活用する上で重要な情報モラルの教育を進め、情報化社会に参画する態度の育成を図ります。 ・子どもたちの発達段階に応じたキャリア教育を推進するとともに、学校支援地域本部など地域で学校教育を支える仕組み作りを強化します。 ・小学校における外国語教科化および国際理解教育推進のため、ALTの配置とその効果的な活用に努めます。 ・外国語・外国語活動において小中学校の円滑な接続ができるように、小学校教員、中学校教員とALT(外国語指導助手)との連携を密にします。 ・『小中一貫教育の推進』に努め、各中学校区のランドデザインを基に、学校と保護者そして地域がお互いに協働し合いながらそれぞれの中学校区の特色を生かした教育を展開していけるように支援します。 ・ふるさと我孫子を愛し、誇りに思う子どもを育成するため、地域の資源を生かした学習を進めていきます。 ・いじめ防止対策推進条例及び基本方針を踏まえ、市としての防止施策の実施及び各学校の防止具体策を支援します。また、いじめ防止対策委員会を年3回開催し、専門的かつ客観的な視点から、市及び学校における課題およびその防止策について検討し、その改善に努めます。 ・学校図書館の計画的活用を通して、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努めます。また、児童生徒の自主的・自発的な学習活動や読書活動を充実させるため、学校図書館利用に伴う学校司書の効果的配置及び活用に向けた研修会や取組を進めます。 				<ul style="list-style-type: none"> ・「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成のため、教職員の資質能力向上に向けた各種研修を実施することができた。 ・全国学力・学習状況調査及び市独自の標準学力テストの結果を分析し、実践の検証を行うとともに、授業改善にいかしていくよう周知した。 ・情報活用能力の育成のため、ICT環境の整備を進めるとともに、インターネットや携帯端末を活用する上で重要な情報モラル教育を進め、情報化社会に参画する態度の育成を図った。また、プログラミング教育の推進のため、カリキュラムを作成した。 ・子どもたちの発達段階に応じた、キャリア教育の全教育課程での実施を推進するとともに、学校支援地域本部など地域で学校教育を支える仕組み作りを強化した。 ・小学校における外国語教科化および国際理解教育推進のため、ALT(外国語指導助手)の配置とその効果的な活用に努めた。また、外国語・外国語活動の充実に向け、小中学校教員とALTとの連携、小学校専科とALTとの連携を強化し、小中学校の円滑な接続ができるような授業方法について検討を行った。 ・小中一貫教育推進基本計画を踏まえ、小中学校の実践を支援し、小中連携交流活動を実施した。 ・いじめ防止対策推進条例及び基本方針を踏まえ、いじめ防止対策委員会を年3回開催した。専門的かつ客観的な視点から、アンケートの分析内容や、市及び学校の防止策を検証し、今後の取組について検討した。 ・学校図書館の計画的活用を通して、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努めた。また、児童生徒の自主的・自発的な学習活動や読書活動を充実させるため、学校図書館利用に伴う学校司書の効果的配置及び活用について研修会を実施し検証した。 	
3. 課の目標を達成する上での課題と対応(人員の配置、組織のあり方など)					
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語・外国語活動の充実のため、ALTの増員及び指導方法に関する研修が必要です。 ・いじめの防止及び発生事案に対する対応を適切に行うために、きめ細かな学校への支援が必要です。 ・学校図書館環境の充実を図るため、学校司書の日常的配置とその効果について検証する必要があります。 ・学校支援地域本部事業推進のために、組織と連絡会議の充実が必要です。 					

4. 原因分析・改善策	
(課長)	(部長)
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の改訂に伴い、小中一貫教育カリキュラムの改訂を行う。 ・小中一貫教育の推進や学力向上に向けて、ALTやICT教育支援員や学校司書の効果的配置や活用について、引き続き検証する。 ・「主体的・対話的で深い学び」の授業が実践できるよう、教職員の更なる資質向上を目指す。 ・いじめの未然防止や早期発見に向けて、アンケートや学校の取組について、引き続き検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各中学校区で作成したランドデザインにそって、引き続き小中一貫教育を推進する。 ・不登校等の児童生徒を支援するために、学校、保護者、子ども相談課、こども発達センター等と一層の連携を図っていく。

5. 課の目標を達成するために取り組む事務事業									
事務事業名(個別事業)	重宝該当	施策コード	指標	単位	現況値	目標値	実績値	達成率(%)	評価
1 キャリア教育の推進	重無	52201	「Abi-キャリア」を自校の教育課程(年間指導計画)に明示した	校	6	10	19	190	現状
2 国際理解教育の推進	重無	43102	ALTの年間のべ勤務日数	日	2,592	2,808	2,592	92.31	現状
3 学校支援事業の充実	重無	52201	学校への支援ボランティアに参加したのべ人数	人	0	45,000	29,332	65.18	現状
4 学力向上推進事業	重無	52102	標準学力調査結果の活用法研修会を授業改善に活かされたか(アンケート調査)	%	92	90	92	102.22	現状
5 小中学校体育・文化活動事業	重5	52101	市内の体育活動や小中体育連盟等の活動費助成割合	%	100	100	0	0	現状
6 教職員資質向上推進事業	重無	52102	教育委員会主催研修会受講者の満足度(アンケート調査)	%	98	90	98	108.89	現状
7 少年センター業務	重4	52302	触法少年への積極的な声かけ活動の展開で安全な暮らしを確保す	人	750	800	511	63.88	現状
8 小中学校コンピュータ教育の推進	重無	52102	令和元年度学校基本調査を基準とした教育用タブレット型端末1	台	33.47	0.97	0.97	100	現状
9 子ども議会	重無	52202	子ども議員の意見の数	人	0	0	0	0	現状
10 ふるさとカリキュラムの実施	重無	52202	補助教材「ふるさと我孫子の先人たち」を活用した授業を実施し	%	100	100	100	100	現状

5. 課の目標を達成するために取り組む事務事業										
事務事業名（個別事業）		重 施 該 当	施 策 コ ー ド	指 標	単 位	現 況 値	目 標 値	実 績 値	達 成 率 (%)	評 価
11	学級経営の支援	重無	52102	Q-U検査の結果や今後の学級経営について複数で検討した学級	%	100	100	100	100	現状
12	幼保小連携	重5	52101	「我孫子市幼保小連携・接続カリキュラム」を基にテーマを設定	地区	0	5	5	100	現状
13	小中一貫教育の推進	重4	52103	Abi☆小中一貫カリキュラム授業の実施	回	0	30	30	100	現状
14	いじめ防止対策事業	重4	52302	我孫子市いじめ防止等に関する施策の実施	回	8	8	8	100	現状
15	学校図書館活用の推進	重無	52102	教育課程内で、授業者が学校図書館や市民図書館の図書を活用し	校	0	6	13	216.67	現状

部の運営方針・課の目標設定書(令和2年度)

部コード	15	部名	教育総務部	部長名	飯田 秀勝
1. 部の運営方針(予算編成・実施計画策定方針などを踏まえて、基本計画の分野別計画や重点プロジェクト、所管に係る分野別基本計画の目標を考慮して、部の目標を達成するための方針を記入)				部の運営方針に対する課の目標への取組結果	
<p>○ 「我孫子市教育大綱」と「我孫子市教育振興基本計画」に基づき、教育行政を推進します。</p> <p>○ 学校教育の充実(「豊かな心の育成」、「確かな学力の育成」、「健やかな体の育成」の推進を図り、『生きる力』の育成に努めます。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の視点で学力向上に努めます。 ・『小中一貫教育の推進』に努め、各中学校区で作成したランドデザインを達成すべく支援します。また、小中一貫教育基本方針に基づき作成した共通カリキュラムを、全中学校区で計画的に教育課程に組み込んで進められるよう支援します。 ・幼保小連携については、「交流」と「カリキュラム」で連携を深めていきます。 ・市費で配置している外国語指導助手(ALT)、ICT教育支援員、理数教育支援員、学校司書、スクールサポート教員、学級支援員等会計年度任用職員の効果的な活用と配置に努めます。 ・「我孫子市学校職員の働き方改革推進プラン」に基づき、教職員が、生き生きと健康でやりがいを持って子どもに向き合える環境となるように取り組みます。 ・Q-U検査及びいじめアンケートを継続して実施し、個々の子ども達へのきめ細かな対応に取り組むとともに学級経営を支援します。 ・給食における地産地消の推進をはじめ食に関する教育の充実やスポーツに関する教育を通して体力の向上に努めます。 ・「学校施設個別施設計画」に基づき、子ども達が安心して快適に学べる教育・学習環境をつくります。 ・信頼される学校づくりを推進するため、教職員のモラールアップ研修等を積極的に実施します。教育委員会と各学校の連携を密にし、風通しの良い組織体制と職場環境整備に取り組みます。 <p>○ 地域に根ざした教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土の歴史や文化に関する教育を充実させて郷土愛の育成を図ります。 ・学校評価、学校支援地域ボランティア活動、キャリア教育などを推進し、学校と家庭・地域が一体となった教育と開かれた学校づくりを目指します。 <p>○ 子どもの成長、自立への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立への支援を図るため、就学支援制度などの活用を推進します。 ・いじめ防止対策推進条例及びいじめ防止対策基本方針に基づき、いじめを人権侵害と認識し未然防止に取り組みます。また、関係機関とも連携して取り組み、健全に子どもが成長できるよう引き続き支援していきます。 ・不登校等の児童生徒を支援するために、学校、保護者、子ども相談課、こども発達センター等と一層の連携を図ります。 ・不登校の改善を目的としているヤング手賀沼は、20校目の学校として位置づけ環境整備します。 				<p>長欠児童生徒対策事業の一つである、適応指導教室「ヤング手賀沼」の運営について、「学校や家庭以外で安心できる居場所づくりをする」「集団活動を通して自立心、社会への適応能力を養う」を目標に事業を推進した。</p> <p>特に、めざす児童生徒像を「自分の気持ちを表現する」「様々な活動に積極的に参加し、楽しむことができる」「目標を持ち、それを達成するために行動ができる」とし、学習活動、体験活動、教育相談を実施し、「ヤング手賀沼」に通級することで不登校の改善を図れた。施設の老朽化により年度途中から湖北台東小学校内に場所を移して運営を行った。小学校教科書の改訂に伴い、教師用教科書及び指導書を購入するとともにデジタル教科書を購入し児童生徒の学習に活用していくこととした。</p>	
				部の運営方針に対する部全体の総合評価	
				<p>教育総務部(総務課・学校教育課・指導課・教育研究所)の運営方針に掲げた目標を概ね達成することができた。</p> <p>本年度は、前年度末からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い2回にわたる緊急事態宣言が国により発出され、事業の中止や延期はもとより小中学校も4月5日が休校になるなど大きな影響もたらされた。そのような中、最初の緊急事態宣言解除後には、感染対策を講じながら小中学校を再開し、新しい生活様式に基づく学校生活の中、修学旅行等の行事は中止となってしまったが、ほぼ例年通りの学習進度を確保、予定した教育課程を達成した。国のコロナ対策関連交付金などの活用により、感染対策物品の購入やGIGAスクール構想、中学校屋内運動場の空調整備など多額の事業予算を補正計上した。そのうち次年度に繰り越した事業もあるため、引き続き繰越事業の執行を含め、部の運営方針の達成に努めていく。</p>	

課コード	04	課名	教育研究所	課長名	遠藤 美香
2. 課の目標(部の運営方針を受けて課の取組方針を記入)				部の運営方針に対する課の目標への取組結果	
<p>1. 特別支援教育を充実させ、児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応する教育を進めていきます。</p> <p>(1) 教育研究所アドバイザー事業や巡回事業等を通して、児童生徒の支援の充実及び特別支援教育コーディネーターを核にした校内委員会の機能充実と強化に努めます。</p> <p>(2) 児童生徒への指導・支援が適切かつ効果的に行われるよう、教育課程の再考と個別的教育支援計画・指導計画の作成と活用の充実を図ります。</p> <p>(3) 児童生徒の将来を見据えた切れ目ない支援に向けて、関係機関との連携を療育・教育システム連絡会で図ります。</p> <p>(4) 保護者が児童生徒の実態に合わせた就学先を選択できるように、教育支援委員会の適切な運営と就学相談の充実を図ります。</p> <p>2. 長欠児童生徒対策の強化をしていきます。不登校の予防・解消を図られるよう、学校との協力体制を強化して、児童生徒及び保護者を支援していきます。</p> <p>(1) 心の教室相談員(在宅訪問指導員)や我孫子市適応指導教室「ヤング手賀沼」、教育研究所等の関係機関と学校との連携を密にし、支援体制を強化して学校教育を支えていきます。</p> <p>(2) 長欠対策連絡協議会を充実させ、学校と関係機関との連携とともに、小・中学校間の接続を円滑にして、連携をさらに強化します。</p> <p>(3) 適応指導教室「ヤング手賀沼」は、機能を強化するとともに施設のあり方及び施設整備についてさらに検討を進め、個別施設計画を作成します。</p> <p>3. 地域学習の充実を図るため、社会科副読本「わたしたちの我孫子」及び学習図鑑「ふるさと手賀沼」の次回改訂に向けた編集作業を進めます。</p> <p>4. 「小中学生のためのいじめ・悩み相談ホットライン」を継続し、引き続き関係機関と連携しながら、いじめの早期発見・早期対応に努めるとともに、児童生徒の困り感の軽減や解消に努めます。また、相談ホットラインの相談件数が増えるように、相談しやすい方法を検討します。</p>				<p>1. 特別支援教育の推進</p> <p>(1) 特別支援教育コーディネーターの質の向上が図れるように、学校の状況に合わせた支援をすることができた。</p> <p>(2) 個別的教育支援計画が活用されるように、巡回事業で確認し、指導することができた。</p> <p>(3) 療育・教育システム連絡会で意見を頂きながら、関係機関と連携して第2期我孫子市子ども発達支援計画を策定した。</p> <p>(4) 教育支援委員会における審議結果に基づき、児童生徒の実態に合わせた就学先を選択できるよう適切に支援を行った。</p> <p>2. 長欠児童生徒対策事業の推進</p> <p>(1) 教育研究所が中心となって、心の教室相談員や各関係機関と連携し、学校支援体制を推進することができた。</p> <p>(2) 適応指導教室「ヤング手賀沼」の建物が、7月に漏電のため、使用不可となり、8月から湖北台東小学校に場所を移して活動した。令和2年度からけやきプラザ11Fに分校を開設する準備を行った。</p> <p>3. 副読本の編成と教科書配布</p> <p>「わたしたちの我孫子」「ふるさと手賀沼」の改訂に向けて編集会議を予定どおり実施した。今後は改訂スケジュールの変更等、事業のあり方を検討する必要がある。</p> <p>4. 「小中学生のためのいじめ・悩み相談ホットライン」については、相談件数が減少した。時代に合わせた相談方法を検討する必要がある。電話・メール以外の手段として全小中学生に配付する「いじめ・悩み相談ミニレター」を作成した。</p>	
3. 課の目標を達成する上での課題と対応(人員の配置、組織のあり方など)					
<p>1. 教育・発達相談事業やアドバイザー事業の推進と充実。学校との連携強化。</p> <p>2. 特別支援教育の推進を図るために、特別支援教育コーディネーターや支援学級担任の人材育成が必要。</p> <p>3. 不登校のさらなる解消を図るために、関係機関と学校との密接な連携や小中学校間の接続を円滑にするシステムを構築する必要がある。家庭支援を組織的に行うシステムの構築も必要である。</p> <p>4. ヤング手賀沼を20校目の学校と位置づけ、学校と同等の教育が受けられるように整備する。</p>					

4. 原因分析・改善策	
(課長)	(部長)
<p>特別支援教育については、専門家チームと事業を検討しながら、推進していく。長欠児童生徒対策事業については、小中学校教職員と協力しながら更なる不登校の解消に努める。不登校のサインを見逃さず、そのサインを見つけた時の初期対応について検証しなければならない。ヤング手賀沼については本校と分校の2か所での運営を充実させる。教育・発達相談については、相談員の質の向上を今まで以上に、保護者や本人の相談ニーズに的確に答えられるようにする。切れ目ない支援体制を、療育・教育システム連絡会の関係機関で推進する。就学相談、教育支援委員会の実施方法については、関係課と連携し、効率的に行えるよう改善する。</p>	<p>・不登校児童生徒数が増加傾向にあることが懸念される。若年層教員の多い学校現場であるので、今後、一層の組織的対応が必要と感じている。校長会、教頭会で伝えていく。</p> <p>・ヤング手賀沼に通う子ども達が、学校と同じような学習環境となるように市の西側にも教室を整備し開設していく。</p>

5. 課の目標を達成するために取り組む事務事業											
事務事業名(個別事業)			重宝該当	施策コード	指標	単位	現況値	目標値	実績値	達成率(%)	評価
1	教育支援委員会の運営	重4	52301	教育支援委員会で最適な就学を決定するための、就学児童生徒審	件数	123	140	132	94.29	現状	
2	小中学校教師用教科書及び指導書の配付	重無	52102	必要数に対する配布数の割合	%	100	100	100	100	現状	
3	教職員研究論文集の発行	重無	52102	論文内容の充実度	%	90	100	90	90	見直し	
4	学級支援員派遣事業	重4	52301	対象児童生徒への配置率	%	100	100	100	100	見直し	
5	教育研究所巡回事業	重4	52301	「個別的教育支援計画・個別の指導計画」作成率	%	95	100	99	99	現状	
6	特別支援教育推進事業	重4	52301	校内委員会開催数	回	201	225	215	95.56	現状	
7	教育研究所アドバイザー事業	重4	52301	アドバイザーの支援が役に立った率・満足度(全校にアンケート)	%	80	100	90	90	見直し	
8	就学相談事業	重4	52301	就学相談で助言した就学先と保護者が選択した就学先の一致率	%	86.5	80	84.8	106	現状	
9	長欠対策事業	重4	52301	不登校の解消率	%	60	70	57	81.43	現状	
10	教育相談・発達相談事業	重4	52301	継続ケースの保護者にアンケートを実施し、相談の満足度をはか	%	90	100	93	93	現状	

5. 課の目標を達成するために取り組む事務事業										
	事務事業名（個別事業）	重 施 該 当	施 策 コ ー ド	指 標	単 位	現 況 値	目 標 値	実 績 値	達 成 率 (%)	評 価
11	適応指導教室「ヤング手賀沼」の運営	重4	52301	ヤング手賀沼に通級している児童生徒の出席率	%	53	60	57	95	現状
12	副読本(社会科副読本「わたしたちの我孫子」)の改訂	重無	52202	内容を検討し指導計画及び評価問題を改訂した割合	%	80	100	100	100	現状
13	副読本(学習図鑑「ふるさと手賀沼」)の改訂	重無	52202	当該年度の第8版編集作業計画のうち実施した割合	%	80	100	100	100	現状
14	小中学生のためのいじめ・悩み相談ホットライン	重4	52302	児童生徒の相談件数	件	27	50	17	34	見直し